

施 餓 鬼 会

六時礼讃 善導大師著(唐613～681) による一日の分け方

- ・日没・・・午後四時・申・七ツ
- ・後夜・・・午前四時・寅・七ツ
- ・初夜・・・午後八時・戌・五ツ
- ・晨朝・・・午前八時・辰・五ツ
- ・中夜・・・午前〇時・子・九ツ
- ・日中・・・正午・午・九ツ

その内、浄土宗法要集による日常勤行式は

晨朝法要(朝勤行) 日中法要(半斎供養) **日没法要(施餓鬼)**

何故日没？→晨朝諸天食・日中如来食・日没餓鬼食

施餓鬼の由来 『救拔焰口餓鬼陀羅尼經』あらすじ

ある日の真夜中、釈尊の弟子のひとりである「阿難尊者」の前に「焰口」という餓鬼があらわれた。焰口は阿難にこう言い放った。

「去りて後、三日にして汝の命、將に尽きてすなわち餓鬼の中に生ぜんとす。」

恐れた阿難は焰口に抜け出す方法を問う。すると焰口は

「汝明日に、若し能く百千那由他恒河沙数の餓鬼並びに百千の婆羅門仙等に、摩伽陀国所有の斛をもって布施し、各々に一斛の飲食を施し、ならびに我が為に三宝を供養するに及べば、汝増寿を得。」

阿難はすぐさま釈尊に相談し、わずかな食べ物、わずかな飲み物で全ての餓鬼に施せるある呪文(陀羅尼)を授かる。その陀羅尼とは

「無量威徳自在光明殊勝妙力」といい

「の一まくさらば一 たたぎゃた一ばろ一きて一 おんさんばらさんばらうん」

また三宝を供養する方法として「多宝如来」「妙色身如来」「広博身如来」「離怖畏如来」の名号を称するように阿難に伝えた。

すぐさまこれらを実行し焰口をはじめとする全ての餓鬼に施し、阿難は長寿を得ることができた。

施餓鬼とお盆の違い

	盂 蘭 盆	施 餓 鬼
経典	仏説盂蘭盆経	仏説救拔焰口餓鬼陀羅尼経
由来	目連尊者の故事	阿難尊者の故事
目的	餓鬼道に堕ちた母を苦界から救う 現在過去七世の父母の供養行	餓鬼道の衆生を苦界から救う 三日の命を永らえ長寿を願う
時	7月15日(僧自恣の日)	※毎日黄昏時(僧侶の修行)
供養	百味五果の飲食・香油錠燭床敷臥具	一器の食・一盃の水
対象	十方自恣の僧衆へ供養	一切の餓鬼・三宝へ供養
法要	内陣法要	下陣法要

六道

天・・・人間の世界より苦が少なく楽の多い世界。

人・・・生老病死の四苦八苦のある世界。

修羅・・・独善的な世界。怒りに我を忘れ戦いを繰り返す世界。欲望を抑える事の出来ない世界。

畜生・・・弱肉強食が繰り返され、互いに殺傷しあう世界。人を蹴落としてでも自分だけ抜け出そうとする世界。

餓鬼・・・嫉妬深さ、物惜しみ、欲望の塊の世界。この世界から抜け出る為、さらに無理を重ねる世界。

地獄・・・様々な苦しみを受ける世界。六道中最も苦しみの多い世界。

法然上人の御法語「一紙小消息」には

「うけがたき人身をうけて、あいがたき本願にあいて、おこしがたき道心をおこして、はなれがたき輪廻の里をはなれて、生まれがたき浄土に往生せんこと、悦びの中の悦びなり」